

令和4年12月2日

嬉野市議会
議長 辻 浩一 様

議会活性化特別委員会
委員長 増田 朝子

議会活性化特別委員会報告書

令和4年第3回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名 「議会の活性化を図るための調査研究」

調査理由

令和3年12月17日に「審査委員」による「議会改革状況審査」を実施した結果、議員報酬について「検討」との指摘を受けた。将来の議員のなり手不足を解消し、多様な人材による議会を実現するために本市の議員報酬のあり方を研究する必要があると考えた。そこで、全国町村議長会で提言され、議員報酬を考える際に採用されている「原価方式」による議員報酬改定に取り組みされた実績のある京都府精華町を視察することにした。

調査の概要

視察内容	「議員報酬について」	
調査日	令和4年10月31日（月）	
視察先	京都府精華町議会	
対応者	議長 三原 和久	
	議会活性化特別委員会委員長	佐々木 雅彦氏
	副委員長	森元 茂氏
	委員	岡田 三郎氏、山下 芳一氏
		岡本 篤氏、森田 嘉久氏
		内海 富久子氏

精華町の概況

人口：35,921人（令和4年10月1日現在）

面積：25.68k m²

精華町は、京都府の南西端にあり、近畿圏のほぼ中心、神奈備丘陵（かんなんびきゅうりょう）を臨む木津川流域に位置しており、万葉の時代以来古くから人々の暮らしが営まれ、歴史と文化の積み重ねがある。また、関西文化学術研究都市の中心として各種最先端の研究施設などが立地するほか、新たな商業施設も含めた都市建設が進み都市として成長を続けている。

【調査内容】

・報酬改定の経緯①（平成 27 年）

当時の町長の方針に引きずられ、10 年間の報酬見直しがされていなかった。また、その間、類似団体との格差が広がるようになった。そこで、議会運営委員会で先行事例（会津若松市議会など）を参考に「実態調査」検討を開始

・報酬改定の経緯②（平成 28 年）

比較対象を「町長」（給与額）とし、議会の年間活動日数と町長の年間活日数の比較を根拠に処遇改善の提言を町長に提出したが、特別職報酬等審議会への諮問・答申は類似団体との比較が主たる理由にされた。

・報酬改定の経緯③

住民とともに学ぶ議会講演会を開催し、議案上程の結果、可決。

2 年間の暫定措置

24 万円 ⇒ 26 万 3500 円 ⇒ 28 万 7000 円

（2 年後に再協議し、本則に改定し現行額へ）

・町民の理解を得るために

○平成 28 年ケース

議運での提言を作成し、町長へ提出、特別職報酬等審議会へ諮問したのち住民とともに学ぶ議会講演会を2月中旬に開催し、議案を上程する。

講師は江藤俊昭氏（当時山梨学院大学教授）で住民も30人程度参加したが、賛否両論が出された。

○令和 2 年ケース

町長に提出したが、コロナ禍で、保留中

【原価方式】 議員の活動量と首長の活動量を比較し、その割合を基に算定する。

「公務性のある活動」の調査方法

（領域 A）本議会・委員会…本会議、常任委員会、議会運営委員会、議員・委員会の派遣

（領域 B）法定外会議・研修等…全員協議会、会派代表者会議、正副委員長打

ち合わせ会町議会主催の研修会、議会報告会、町民との意見交換会、
他市町村議会の視察受け入れなど

(領域 C) 議員活動（政党活動、後援会活動は除く） 公務性の有無

議案の熟読、調査、請願の調査議員個人としての視察、

(領域 X) 要望の取次、住民の生活相談、議員個人の広報活動、冠婚葬祭など

調査期間 定例会を含む 3 か月

【委員会の意見】

精華町議会においては、10年ほど前までは迫認識会であったが、これからの地方議会に求められることとして原点に戻って考え、『市民の信頼を取り戻し、二元代表の1つとして機能する「自治体議会」（国会ではない）にすること』とし、議員の意識改革も含め「開かれた議会」の実現を「チーム議会」として目指してこられた。議員の担い手確保の妨げとなっている条件改善を図られた一つとして、議員報酬の見直しがある。これまで議員報酬の見直しは、類似団体のとの比較が主たる理由にされていた。そこで、住民に理解してもらうことが一番の課題だったため、議員報酬の比較対象を「町長」（給与額）とし、議員の活動を数値化された。このように、報酬の見直しの条件方法の検証や住民とともに学ぶ講演会を開催されたことは、一番大事なことであり大きな成果である。そして、議員発議による報酬改定の議案を上程、可決されたことに、将来の議員の為にとの強い思いを感じた。そして、議員処遇の改善については、これまでは、なかなか机上に上がらなかった案件だが、任期中に1回は見直すことを取り決められたことは、議会改革の一つと考える。

議員報酬の適正化を図ることは、現職議員の待遇を改善するだけでなく、将来のなり手確保の為にの先行投資でもある。また、多くの多様な住民が、将来議員になりやすくまた、議員活動をしやすくする条件であり、持続的な地域民主主義の条件として考える必要があるため、今後も議論を深めていきたい。

調査理由

嬉野市議会基本条例第 6 条に市政全般にわたって市民と情報及び意見を交換するため議会報告会（議員とかたろう会）を年 1 回以上行うものとして規定している。しかしながら、コロナ禍の中で、昨年は開催を見送らざるをえなかった。そのような中でも、工夫して「オンライン議会報告会」による開催、また、「議会と語ろう会」や課題懇談会の開催など議会改革に積極的に取り組んでいる西脇市議会を視察した。

調査の概要

視察内容 「議会報告会について」
調査日 令和 4 年 10 月 31 日（月）
視察先 兵庫県西脇市議会
対応者 議長 林 晴信氏、副議長 村岡栄紀氏、
議会運営委員会副委員長 高瀬 洋氏

西脇市の概況

人口：37,536 人（2022 年 10 月 1 日現在）

面積：132.44k m²

位置：兵庫県のほぼ中央部、東経 135 度と北緯 35 度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置する。

議会報告会

・議長を除く 15 人が 5 班にわかれ、各班 3 人の議員が 1 会場を担当
（別班の 3 人の議員がサポート）

・2 部構成…

第 1 部定例会の内容を議員が報告、第 2 部は共通テーマと各自治会のテーマを設定し、市民と意見交換、意見交換は 3 グループ程度にわかれ、ワークショップ方式で行う。議員 1 人が 1 グループを担当し、ファシリテーターを務める。（1 人の議員が記録等のサポート）グループごとに発表し、参加者内で出た意見を共有する。

（実施状況）

平成 22 年 5 月に第 1 回を開催、平成 27 年 11 月から地区単位の開催を自治会単位の開催に変更（市内 80 自治会・2 年で全自治会実施）、令和元年 5 月まで 17 回実施、令和 3 年 8 月にオンラインで第 18 回議会と語ろう会を開催。

令和 4 年 5 月第 19 回議会と語ろう会以降、通常開催に加え、オンライン議会報告会を実施。

（自治会への報告）

報告書を作成し、約 3 か月後に各自治会長へ持参する。開催自治会等には、回覧部数分を持参して回覧を依頼し、また、ホームページにも掲載する。

課題懇談会

(概要)

市内で活動する市民団体、市民グループと各委員が課題やテーマを決めて意見交換を行う取組み

- ・市民団体は公的団体、任意団体を問わず、懇談会の対象
- ・市民団体から開催申し込み、並びに委員会から団体に申し入れて開催する双方からアクションを起こせる形式をとっている。

(成果)

令和 2 年度は、コロナ対策に関して地区区長会、市内全てとなる 3 つの商店会と懇談を行った。地域住民や事業者のリアルな声を基に様々なデータ収集と議員間討議を重ね、市行政へ政策提言を行い、予算へ反映される結果となった。

政策サイクル

- ・毎年 3 月の当初予算審査を決算審査に向けての起点とし、決算審査は次の当初予算に反映させることを意識して、施策や事業の動向や成果を調査・議論するという予算決算のサイクルを展開している。
- ・委員間討議…議案質疑終了後、予算常任委員会及び決算特別委員会で委員会討議を行う。
副委員長が論点整理し、ピックアップした案件を 30 分間ずつ議員間討議を行い、三分の二以上の委員の賛成で執行部へ申し入れを行う。
- ・行政評価
- ・特定所管事務調査
- ・一般質問…一般質問の成果や課題を所管の常任委員会にフィードバックし、サイクルに乗せ、委員会として政策の実現を目指す

【委員会の意見】

議会報告会においては、議員 3 人 1 組で市内 80 自治会を 2 年で全自治会実施され、議員一人一人の役割がはっきりしている。コロナ禍で始められたオンラインの「議会と語ろう会」も令和 4 年からは、通常開催に加え行われている。他にも議会における政策サイクルの導入、常任委員会のオンライン化、定例会反省会の実践、議員研修の充実など多くの議会機能強化をされているが、議長の強いリーダーシップを感じた。

本市議会においても、議会報告会として「議員とかたろう会」の開催を条例で制定し、以前は、各行政区での報告会を行っていたが、参加者も減り、マンネリ化になりながらも、新しい試みも行ってきた。そのような中、去年は、コ

ロナ禍の影響もあり、開催を見送らざるを得なかった。しかしながら、「開かれた議会」を目指すためには、一人でも多くの市民に議会に対し関心を寄せてもらい現場の多くの声を聴き、それらを政策サイクルとして市民にフィードバックすることが議会の役割と考える。そのためにも市民が参加しやすいような場の設定をこれまで以上に工夫を凝らし検討していきたい。